

DPP-4 阻害薬リナグリプチンの有効性と限界 - 皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価 -

○中島さゆり、小嶺真耶、矢野未来、江藤りか、宮崎健一、李 嘉明、
橋口純一郎、原田孝司、船越 哲

【目的】

糖尿病透析患者における DPP-4 阻害薬リナグリプチンの評価法として、インスリンから切り替え可能かを検討する。

【対象および方法】

当院外来通院中のインスリン治療中の維持透析患者で、原則として①投与インスリン量<15U、②空腹時 CPR>5.0 μ U/mL、③併用の糖尿病治療薬なし、を満たす7例において、経口リナグリプチン 5mg に切り替え、切り替え前後の血糖 profile を CGM (Continuous Glucose Monitoring 皮下連続式グルコース測定) にて測定した。

【結果】

7 症例全例で、インスリン投与時の HbA1c 6.6+1.6% からリナグリプチン 5mg 切り替え後の HbA1c 6.1+2.0% と変化はなかった。一方、血糖変動スコア MAGE (Mean Amplitude Glucose Excursions) も、78.0+29.0 から 59.0+22.0 と低下する傾向にあったが有意差はなかった。

【考察】

比較的少量のインスリン治療を受けている糖尿病透析患者 7 例において、インスリンからリナグリプチンの切り替えが可能であった。しかし、切り替え後の MAGE 値に変化はなく、DPP-4 阻害薬と他剤の組み合わせがポイントと思われる。